

デイリー・ジーザス・ニュース #154

真の信者はイエスの言葉に従う

ヨハネ8.31-36

31 イエスは、自分をずっと信じていたユダヤ人たちにこう言われた。

「わたしの教えに従うなら、あなた方は本当にわたしの弟子なのです。 32 そうすれば、あなたは真実を知るでしょう。そして真実はあなたを自由にするでしょう。」

33 彼らは答えました。「私たちはアブラハムの子孫であり、だれの奴隷にもなったことはありません。どうして私たちが解放されると言えるのですか。」

34 イエスは答えられた。*「よくよくあなたがたに告げます。罪を犯し続ける人は皆、罪の奴隷です。 35 奴隷はいつまでも家族の中にとどまることはできませんが、子はいつまでも家族の中にとどまります。 36 ですから、もし子があなたたちを自由にするなら、あなたたちは本当に自由になるのです。」*

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、*赤いイタリック体はイエスの言葉を示します*。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	エルサレムの神殿の庭
タイムライン	9月 (31月)
イエスの生涯の文脈	第六段階: イエスの後期ユダヤ教宣教 B. 仮庵の祭りにおけるイエスの宣教
	神殿でのイエスの2番目の教え: 「私は世の光である」
タイトル	の言葉に従う

コメント:

今日の聖書朗読には、イエスの最も有名な言葉の一つが含まれています。「あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする」(8章32節)。しかし、この約束は普遍的なものではなく、8章31節でイエスが述べた条件を最初に満たした人々に限られていました。「もしあなたたちがわたしの教えにとどまるなら、あなたたちは本当にわたしの弟子です。」これは、私たちが完全に理解し、従うべき、弟子としての生き方に関する重要な概念です。

デイリー・ジーザス・ニュース #154

私たちの朗読は、重要な条件から始まりました。「イエスは、ご自身をずっと信じていたユダヤ人たちに言われた...」。彼らは、イエスが十字架について語っているほんの数分前に、イエスを信じたばかりの新しい弟子たちでした(8.30)。イエスは真の弟子を見分ける主な特徴の一つをすぐに示されました。そして、彼らにご自身の第一の、そして生涯にわたる期待を告げ、弟子としての訓練を直ちに開始されました。

イエスは「ラビ」、つまり神の教えを教える教師でした。ラビに「学ぶ者」、あるいは「生徒」(「弟子」の意味)として受け入れられた人は、師の教えに耳を傾け、それを吸収することにのみ関心を向けました。ほとんどの弟子は少なくとも6年間、中には一生をかけてラビのもとで学びました。イエスはこの言葉を発した時、「弟子」であることの意味についての、当時の文化的に一般的な期待に基づいていました。

イエスは新しい弟子たち(すべての信者は「弟子」、つまりイエスの学び手です)に、生涯にわたってイエスの教えに「従う」、つまり日々従い続けることを期待していると告げていました。イエスから「学ぶ」過程は決して終わることなく、永遠に続くものでした。弟子たちは師の「教え」、つまり「言葉」を学びます。これが弟子の職務内容の本質です。

イエスはここで、ヨハネによる福音書の中で最も重要な動詞の一つ、「とどまる」を用いています。この言葉は、家の四方の壁と屋根、あるいは主人の人格と教えの影響と保護のもとに「留まる、続ける、生きる、あるいは自分の家とする」ことを意味します。イエスは8章35節で、奴隷や息子が自分の家に「とどまる」ことを描写するためにこの言葉を用いています。

イエスは、ご自身を信じるすべての人が、生涯を通じてイエスの教えを絶えず学び、実践することを最優先にするよう期待されました。その教えは主に四福音書と使徒行伝に記されており、新約聖書の残りの部分によって補足され、旧約聖書によって文脈と背景が与えられています。信者はイエスの生涯と教えを真剣に、献身的に、そして熱心に学びます。すべての弟子は、時間をかけてイエスの教えの専門家となるべきです。

イエスの教えに「従いなさい」という指示に従う信者は、イエスの真理の知識を深め続け、それによって罪の力と影響からの自由を増し加えていきます。すべては、イエスの生涯と教えを日々真摯に学ぶことから始まります。

応用：

デイリー・ジーザス・ニュースは、ATJミニストリーズが信者の皆さんに、年間365日、毎日一つずつイエスの出来事や教えを読むことで、イエスの教えに「従う」ことができるよう努める試みです。皆さんがこの言葉を読んでいるということは、生涯にわたるイエスの「弟子」としての役割を真剣に受け止めていることを示しています。しかし、イエスが「従う」と言ったとき、それは単なる日々の祈り以上の意味を持っていました。イエスが意味していたのは、福音書を直接、繰り返し、体系的に、そして従順に読むことであり、それが皆さんの霊的生活の基盤となるのです。毎日。

四福音書すべてを年に少なくとも3、4回は読まない聖書読書計画では、イエスがこの言葉を述べた際に念頭に置いていたことを満たすことは難しいでしょう。さらに、そのような読書計画は弟子としての生涯を通じて継続されるべきです。それが「とどまる」という意味です。

デイリー・ジーザス・ニュース #154

福音書と使徒行伝を毎日1章ずつ読むと、年に4回通読できます。これは妥当なペースです。四福音書、新約聖書の残りの部分、詩篇、箴言を含む90日間読書プランのサンプルを添付しました。

イエスの生涯と教えに関するあなたの日々の学習計画は、イエスがあなたに対して期待しておられることとどのように一致していますか。

何を変える必要がありますか？それはいつ起こるのでしょうか？